

平成29年度 第1回学校評議員会 記録

平成29年6月26日(月)

15:50~17:00

場所:盛岡二高 応接室

進行:副校長 記録:総務課

○出席者 学校評議員 5名
学校職員 9名

○日程 14:30 受付 14:45 授業参観 15:50 評議員会(～17:00)

(1) 開会のことば 【副校長】

(2) 校長挨拶 【校長】

本校の教育活動にご支援ご協力を頂き感謝申し上げます。また、学校評議員をお引き受けいただきましたことに感謝いたします。本日は、本校の学校経営について忌憚のない意見を頂きたい。高校での教育とは、高校を終えた後に、どう社会で生きていくかということに繋がっている必要があると考える。社会で生きていくための力、より良く生きていく力を育てるために、この二高がどうあるべきかを考えていく必要がある。教育について先入観にとらわれない、違う世界での視点が新たな気づきに繋がる。社会の各方面で活躍されている学校評議員の皆様、いろいろな角度の視点から教えていただく機会として、この学校評議員会の大きな意義があると考えている。この学校評議員会が、我々教職員の学校運営の問題点に気づきを与え、改善へのヒントをもたらし、それが実際の改善に結びつくような意義のある会にしたい。よろしくお願いします。

*委嘱状交付

*自己紹介(学校職員・学校評議員)

(3) 平成29年度学校経営計画及び重点目標 (質疑含む)

ア 学校経営計画(資料:平成29年度盛岡第二高等学校経営計画) 【校長】

二高について私がどう受け止めているかをお話して、評議員の皆様からご意見をいただきたい。

生徒については、とてもまじめである。学力的には、盛岡一高や盛岡三高に入学できるものも居る。また、盛岡四高や盛岡北高を考えると、半分以上が合格最低点を上回る生徒達である。しかし入学時点で、大学受験に対してガツガツしたくないという気持ちで入ってきていると思う。その表れとして、浪人生が一桁しかない。比較すると、盛岡一高は300名のうち100名以上が浪人している。それは、学力が無くて浪人するのではなく、明らかに大学へのこだわりを持っているので浪人している。二高生は、現役で地元でいたいという気持ちで入学しているので、それを叶えてあげる方向で進むのが良いのではないかと現在は考えている。推薦入試を使って国公立に進学し、また短大などで学び、地元で手堅い歩み方をする生徒でも良いのではないかと考えている。保護者も、娘を岩手に置きたいと言う気持ちが強い。地域の方々からも、二高生は大事にしている。

また、同窓会やPTAからも手厚く応援していただいている。同窓会の方々、今の二高の学力的な立ち位

置を理解してくださって、応援してくれている。むしろ、品の良さや人柄の誠実さなど、二高らしさをぜひ守って欲しいという期待はもっていると思う。

二高生は、一人の人間として自分の価値観に基づいて頑張ると言うような自立心がなく、見守られていないとできない弱さがある。自分で自分の人生を切り開いてゆくしたたかさや強さを持たせたいと考えている。

イ 各課の重点目標

(総務課)【総務主任】

- 1 庶務・行事等の諸活動を円滑にする。
 - ・学校要覧は、お手元に配布できた
 - ・入学式、始業式・新任式も滞りなく行われた
 - ・三者面談 7月11日(火)から4日間行われている。
- 2 PTA(白梅振興会)活動の活性化をはかる
 - ・PTA総会 保護者63名参加 全体の1割
学校に関心が無いという訳ではない。いろんな場面で足を運んでもらっている。
現段階で、出席率を伸ばす為の特別な方策は考えていない。
 - ・PTA理事会も活発。各クラスから2名の理事が4つの委員会に分かれて目標をもって活動している。
理事の活動が全体の良い雰囲気を作っている。
 - ・PTA研修旅行、今年は秋田。26名の参加
 - ・東北高P連盛岡大会 1,500名規模で7月6～7日に開催
本校前PTA会長が、本大会の実行委員長で二高は大きく関わっている。
- 3 創立120周年記念事業の完遂を目指す
 - ・今年、様々な行事が行われている。記念植樹、招待試合
 - ・芸術鑑賞会、白梅特別展覧会は東北高P連と重なった。
 - ・7月は文化部の演奏会が120周年記念と銘打って開催される。
 - ・120周年に係る募金は、現在約1140万円 1100件
同窓生、旧職員、篤志家、保護者
目標は1500万円 再依頼を発送した。
 - ・5月26日合同会議で今年度の体制が整った
今後、各委員会での活動が進んでゆく
- 4 教職員の良好な環境作りに努める
 - 教職員に関する百分会の行事の見直し
同窓会について 120周年記念事業も同窓会との関わりを密にして進めていきたい

(教務課)【教務主任】

教務としては、生徒の「学力向上」が一番の重点目標である。多くの生徒が志望している岩手大学、県立大学にもう少し力を付ければ入学できるという生徒を多く見てきた。第一希望を実現できる学力を付けることが課題である。学力向上には「授業」と「家庭学習」の2本柱が大事である。

- 1 授業については、英語と数学が苦手な生徒が多く、授業がわかるという生徒が60%を切っている。進路希望を達成させるために、レベルの高い授業をせざるを得ない状況の中で、授業がわからない生徒が多くなっている状況が生まれている。この点は改善すべき点である。しっかり分析して対策を取っていかなければならない。
- 2 家庭学習については、年に2回家庭学習時間の調査をしている。昨年度12月に実施した調査では、平均学習時間は、平日で1.5時間を切っている。過去5年間を比較すると年々減ってきている。その要因がどこにあるのか考えながら今後、部活動や週末課題の在り方などを検証していかなければならない。授業と家庭学習については、具体的な対策を講じていかなければならないと考えている。

(生徒指導課)【生徒指導主事】

- 1 重点目標は、高校生活の基盤を作ることが基本的な目標である。具体的には、生徒規律の確立に関しては、本校の生徒は大きな問題は無い。問題になるのは、問題行動を未然に防ぐ指導である。問題行動と言っても、本校生は喫煙や万引きは無い。心配されるのは、スマホやネットによる問題に巻き込まれないようにすること。この件に関しては家庭での行動なので、学校では目が行き届かない点が心配である。その対策として、1年生は入学してすぐに、ドコモの携帯安全教室を設けている。そのほかにスマホの利用状況調査を実施して、生徒の実態把握に努めている。更に、この裏にはいじめ問題があり、これは全県的、全国的な重大課題である。本校でもいじめ事案が無いわけではない。表にはほとんど出てこないが、このようなスマホやネットの中で潜伏している可能性も懸念される。これからは、このような点に目を光らせる必要があると考えている。
- 2 生徒会活動等については、今年120周年なので周年事業とタイアップして部活動、生徒会活動、応援活動を行っている。部活動では、4月になぎなた部、5月にハンドボール部が招待試合を済ませている。7月23日にはバレーボール部の招待試合を予定している。文化部においても、各定期演奏会に「120周年」という冠をつけて例年以上に盛大な内容になると思う。生徒会でも、二高祭については120周年を全面的に押し出す形で例年以上に盛り上げる企画をしている。応援活動については、今年もテレビ等で取り上げられた。規律ある活動をしている。しかし、ここ数年は、応援歌練習の厳しさに1年生がついていけない状況もあり、欠席する生徒も目立ってきた。反省を元にして改善もしているが、応援歌練習が原因で学校に来れなくなる生徒も毎年いるので、今後応援歌練習をどうしていくかは応援団を含め、検討していかねばいけない重要な課題のひとつである。
- 3 安全指導については、本校の特色として「交通事故記録カード」を生徒全員に携帯させている点が上げられる。事故に遭ったときには、そのカードを利用してその後のトラブルを防ぐ。本校の立地条件はあまり良くない。H28年度は自転車事故12件あった。生徒の命に関わることなので、交通安全意識を高める指導を進めていきたい。

(進路指導課)【進路指導主事】

進路指導の大きな目標は、生徒一人一人の進路実現の支援だと考えている。そのために3年間の必要な時期にタイムリーな情報を生徒、保護者に提供できることが第一だと考える。そのために進路通信、ガイダンスなど計画している。生徒についても、これだけ多くの情報があるが、学問分野や職業について知っているつもりで知らない事が多いので機会を見て情報提供をしている。入学時の進路希望で一番多いのが国公立大学で、100名を越える生徒が希望している。一番は国公立に焦点を当てて重点的に計画を進めている。

人材発掘については、自分の適正や実力を過小評価せず、ぜひやりたいことに挑戦して欲しい。国公立出願80名を目指すと資料に書いているが、もともとの希望者が100名を越えている中で、できれば80名は推薦という形で挑戦させてあげられればと考えている。H28年度はAO、推薦で56名が挑戦している。H27年度よりも11名増えたので、少しは人材発掘、育成ができたのではないかと考える。

一般入試については、合格者15名以上というのは昨年と同じ目標である。昨年はH27年度の6名から15名に合格者を増やすことができた。推薦も一般も共通して、学力が高くないと挑戦する気持ちも芽生えないのではないかと。学力に自信が無いと、生徒は推薦やAOにも挑戦しないので、何よりも学力養成が必要。進路通信でも勉強方法など進路以外の部分についても力を入れて情報提供している。

外部の専門学校や大学の方が訪問されて「二高生がたくさんいると、いろんな事を安心して任せられる」と言われる。代表挨拶やクラスの役員など、数字に表れない二高生の良さを教えて頂く機会も増えている。そのような二高生の良さも大切にしていきたいと思う。

(保健厚生課)【保健主事】

先週末の体育大会で骨折1名、ねんざ1名いた。そのほか部活動でねんざ1名、足の手術1名で計4名が現在松葉杖である。H28年度にはインフルエンザによる出停が無かったが、今年度は応援歌練習を5月から4月に移したところ、インフルエンザがあつという間に広がり、学級閉鎖があった。4月中には落ち着いてきて5月のゴールデンウィーク明けには、全クラス通常どおりの授業になった。

定期健康診断の結果を見ると今年の1年生は、肥満傾向の生徒が多い。各種保健行事は、薬物乱用防止教室や救急救命講座は例年どおり開催。健康教室については、健康について生徒が気づかない、または知らないために健康管理に気を配らないのではないかと考え、学校歯科医から口腔衛生の重要性について話してもらったり、「女性のからだ・女性の健康」について県立大学のアンガホッフア司寿子先生に来校してお話いただいた。繰り返し健康管理の大切さを教えている。

清掃については、通常のコブは職員と全校の生徒で清掃しているので概ねきれいである。掃除機が故障しているのできちんと対応していきたい。

本校は「岩手の防災スクール」に認定されている。沿岸被災地に1年生が出かけて行って研修・ボランティア活動を計画的に行っている。

(4) 懇談

【評議員】

同じ教員の立場で授業を見せてもらって、やはり中学校と高等学校の授業はずいぶん違うと感じた。小中では、まず課題を黒板に書く。特に岩手県で取り組んでいるのは、この授業によって何が解決したか、何が未解決かを時間毎にはっきり生徒に意識させるための振り返りを大切にしている。そのような授業に慣れてきた生徒にとっては、高校の授業にビックリするのではないかと。

【教務主任】

本校では、前・後期とに分けてグループに分けて授業公開を行っている。前後期で一人2回必ず授業公開をして、6名の先生方の授業を見て研究する。その中で、授業のテーマを書き、目標を生徒に示した方がわかりやすいという話も出ている。しかし、実際の授業ではできていない部分もあるので今後考えていかなければいけないと思う。

【評議員】

問題行動については、昔のように荒れるということは無いが、小中高ともスマホの問題が多い。特にこの

問題は若年齢化しているので、小学校からもラインでのいじめやトラブルに関する引き継ぎがある。このような問題は、表に出た時には問題が進んでいる場合が多い。問題解決には小中高の協力が必要である。

【生徒指導主事】

スマホについては、使用調査はするがなかなかその先までは踏み込めない。生徒指導部会でもネットパトロールなど話題になるが、とても我々教員の入り込めるところではない。この問題についてはもう少し検討し意見をもらいながら進めていきたい。

【評議員】

最近、中学校の部活動の多忙化が話題になっている。県では、第2・第4土曜日は部活動なし。平日も週1回は休みという指導がされている。高校ではどうか？部活動という運動部に目が行きがちだが、案外吹奏楽や音楽部といった文化部も活動している印象がある。

【生徒指導主事】

部活動については、部活規定が有り、週に1回は休むということを年度初めに申し合わせとして確認している。土・日についても、午前・午後の時間の設定はあるが、守っていないクラブがあるという実態がある。その点については、年度内に確認し、共通理解が得られるようにしたい。また、外部コーチも多くいるので、そのようなコーチの方も含めて学校の方針やスタンスを周知する必要がある。

【評議員】

二高は今後どのような強みで望まれる学校になるか。なぜ今いる生徒達が、この女子高を選んだのか、長く勤務する先生方はその辺りのニュアンスがわかるのではないだろうか。2年前に評議員を仰せつかった時に、できるだけ二高を解ろうと思い、年間の全ての行事に足を運んだ。その間いつも、この生徒達はなぜ盛岡二高を選んだのだろうかと考えてきた。それが解ると、望まれる二高生像に添った方策が出てくるのではないか。以前は、国公立合格100人を目標に掲げ、55分授業にして学力向上を目指すなど、試行錯誤してきた。現在、親の地元志向が増加しているのであれば、その思いに学校が添うような、現実に即した対応をすることは、良い判断ではないか。しかし、国公立80人を目標することは諦めずに頑張りたい。指導者の教え方次第で生徒は変わる。先生方一人一人の教え方に期待したい。

【評議員】

話を聞いていて、親の考え方、親の姿勢が大きな要素だと思った。現代の少子化にあって、親が地元志向を強めていると思う。では、地元で何をやりたいのか、目標を立てなければいけない。また、もう少し岩手大学に入って欲しいと感じている。岩手大学のレベルに合わせた授業設定をすることが必要ではないか。授業を見るととても丁寧だが、それでは生徒は受け身になってしまう。それで本当に力が付くのだろうか疑問に思った。自分で伸びてゆこうとする意欲が沸くのろうかと感じた。親、本人、双方の意見を聞き、まとめながら指導することなど考えても良いのではないか。

町内会としてみると、歩行の様子やバスを待っている時など、二高生はとてもまじめである。ぜひ良い伝統は維持して欲しい。

【評議員】

卒業生なので、学生の頃を思い出しながら見てきた。入学当時は、女子高ということで違和感があったが、一ヶ月もすると女子だけという環境に慣れて、安心して伸び伸びと過ごすことができた。私も二高生をよく見かけるが、品の良いしっかりとした生徒が多いと感じている。進学についても、一昨年に比べて少しずつ増加してきているという話を聞いて、先生方の指導の効果の現れではないだろうかと感じた。どうしたら学力が伸びるかは難しいことだが、生徒自身が目標を持たないと、それに向かって頑張っていこうという気持ちが高まっていかない。どんな仕事をしたいか、どんな事を学びたいかと言うことが明確に判ることが大

切。どんな自分になりたいか、その気持ちを育ててあげることが必要。

スマホについては、今、世の中が既に当たり前になっているので、なかなか難しいことだ。勉強時間にも影響があると思う。だからこそやりたいことを早く見い出して欲しい。

【評議員】

今年の3月に次女が盛岡二高を卒業して神奈川大学に進学した。長女と次女のふたりが盛岡二高にお世話になったが、全く違う方向性で進路を選んだ。文理選択をする段階で何を指して何をしたいのかを早く見つけることによって進学の方角性が変わる。目的意識が持てるということが、学力向上の鍵を握っているように思う。

昨年度PTA会長の時、県の健全育成委員会に参加していた。スマホに関しても、いじめ問題、そして自ら命を絶つというような連鎖があるという話しが出ていた。二高では長女の時から、「夜9時以降は携帯・スマホの電源を切って勉強の時間に充てましょう」という方向性が出ていた。県でも、夜9時以降電源を切ることをやりませんかという話しは出ているが、全県一斉でやるのは難しいと言われている。ぜひ今後も働きかけてお願いしたいと思っている。他校のPTA会長からも、二高生は品があつてすばらしいと言う声が聞こえる。ぜひ、その伝統をプレッシャーでは無く誇りに変えて頑張つて欲しい。

【評議員】

下小路中学校の地区懇談会でも、スマホの問題はありますという話しだった。禁止すればするほど人はやりたくなる傾向があるので、9時以降一斉に止めるというのは難しいと考える。スマホは、限られた字数で発信するが、言葉の使い方がどう相手に影響するかをもっと学んで欲しい。それは、普段の会話の中でも理解させたい。発信力の指導をしてもらえれば、このような問題が少なくなるのでは無いかなと思う。

【評議員】

評議員会の持ち方について、授業参観をもう少し短くして、懇談を長くした方が良いのではないかな。8ページに渡るこの資料の内容をこの時間内では語り尽くせない。

【副校長】

第2回以降は、時間設定を考えたい。

お忙しい中、お集まり頂きありがとうございました。

以上をもちまして、平成29年第1回学校評議員会を終了いたします。